

本会青年企画委員会事業報告

第5回高校生の「建築甲子園」 静岡予選公開審査会

「建築甲子園」担当青年企画委員 渡邊 俊伸

秋、深まり始める11月15日。今年も高校生の「建築甲子園」を静岡市駿河区静岡ガス株式会社の会議室にて開催いたしました。今年で5回目を数え少しずつではありますが、認知度が増してきていることと思います。今年度は、参加校5校6チームでの争いとなり本県では過去最多の出場学校数、チーム数となりました。

今年のテーマは昨年に引き続き『地域の暮らし』でした。応募要項では、「地域の暮らし」をテーマに皆さんが育ってきた住まいと家族、地域の人々・環境との関係性について記述やそこから生まれる建築設計を軸に考え表現し競い合うものでした。出場された生徒のみなさんは、この審査会に向けてぎりぎりまで作品を作り、また発表時間が10分間と限ら

れるなか、繰り返し練習されてきているのが手に取るように伝わってくるプレゼンテーションでした。さらには、審査委員の質問にも自信を持ってはっきりと回答する姿はわれわれも見習うところです。

このたび初めて担当させていただきましたが、高校生がここまですごいとは思ってもよらず司会をさせていただきながら感動するほどでした。他校の作品を見ることができる唯一の休憩時間は、やはり他の作品が気になるためかじっくりと見て回る姿がとても印象に残っています。平行して開催した静岡ガス(株)の社屋、ショールーム見学会は普段見れない裏側や水回り機器など興味深く見学されていました。高校生のみなさん感動をありがとうございます！！

チーム名 チームベジタブル 作品名 レンタル農業でGOGOGO~!!

浜松は工業のマチです。しかし今、大企業の工場移転などの変化が起きています。そこで、私たちは工業を支えるものとして、浜松の農業に目を付けました。あまり知られていませんが、浜松は農業のマチといっても過言ではありません。しかし、それを知っている人は少ないのです。浜松は日照時間が長く、水はけのよい土地を有する、農家にとっての、『理想の地』なのです。この土地を生かすため、以下の三つの柱で設計しました。①浜松の地域の人に農業のマチだと認識してもらう。②子供達に農業の面白さを知ってもらい、未来の農家を増やす。③この地を発信源とし、農業のネットワークを広げていく。このように、浜松を工業と農業がマッチした、「産業のマチ」とするプランを私達が提案します。



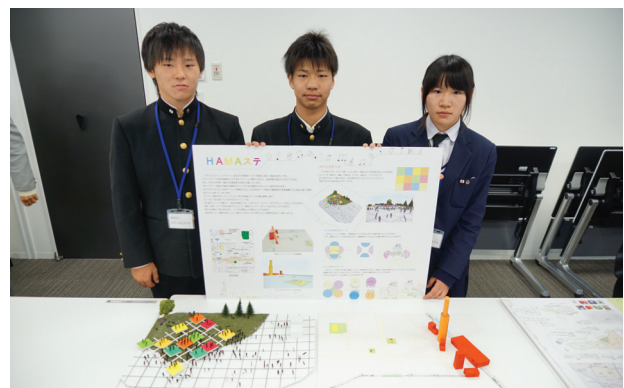
静岡県立浜松工業高等学校

発表者 男子2名

チーム名 The Sounds 作品名 HAMAステ

浜松には大手楽器メーカーが数多くあり、アクロシティでは毎年国際的に大きなコンクールが開かれる音楽のまちです。また、市内の中学校、高校の吹奏楽部も活発に活動しています。その一方で、中高生が気軽に演奏を行うことができる場所が少ないという現状があります。

そこで、中高生をターゲットとした、新たな音楽ステージを提案します。テーマは「自分達でつくりあげるステージ」です。自分達でユニットを動かし、自由な発想でステージをつくり、コンサートをプロデュースすることができます。広場の一角にあるため、いつでも気軽に演奏することができます。浜松をもっと音楽のまちとして盛り上げたいという思いで、設計しました。



静岡県立浜松工業高等学校

発表者 男子2名 女子1名

チーム名 島田工業高校
作品名 足湯でほっこり みんなの家

島田市の商店街に活気を取り戻すにはどうしたらいいのか？建築家として何ができるのかを考えてみました。人を集めるにはどうすればよいか？島田にたりないものは何か？島田市では映画館がなくなり市民会館も使用されなくなるなど娯楽施設が減ってきています。そこで映画館を復活させ高齢者、子育て世代を中心に街に人を集めることを考えてみました。その映画館を核とした娯楽施設を運営するのは島田をこよなく愛する人達の集まり。みんなはこの建物に共同で生活しています。協働生活をしているのです。島田を愛する人達による娯楽施設の運営。これにより街に活気が戻ってきてくれればよいなと思っています。

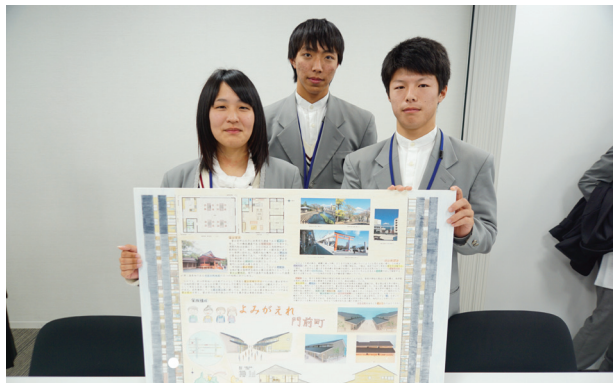


静岡県立島田工業高等学校

発表者 女子2名

チーム名 富岳館高校
作品名 よみがえれ門前町

富士宮市は、北方に世界遺産である富士山、市中心部には富士山の構成資産である浅間大社を有する。白糸ノ滝や陣馬の滝、朝霧高原や人穴などの多くの観光スポットは連日、観光客で賑わっているが、富士宮の良いところはそういった観光スポットだけではない。古くから門前町として栄えた富士宮には、富士宮焼きそばやニジマス料理などを提供する小さな店が多い。大型バスで観光スポットを巡るツアーもいいが、富士宮の小さな町を歩くのも、バスツアーとはまた別の良さがある。観光客が自然と歩きたくなるような町づくりを目標として、昔の門前町のよなになぎわいと活気を取り戻す。



静岡県立富岳館高等学校

発表者 男子2名 女子1名

チーム名 建築デザイン科・建築研究部
作品名 めぐみの巡り

地域のめぐみを受け入れ、巡らせることで、地域のくらしを持続させていくすまいを提案する。清流にめぐまれた山葵の里である有東木。この家を中心に、有東木のめぐみを巡らせていく。山の等高線と砂防ダムを利用して敷地をつくり、そこに清流を巡らせ、めぐみをもたらす。そして、清流と地形を生かし、分棟の家を配置する。それぞれの家は縁側でつながり、縁側が巡って人のつながりを生む。さらに、エネルギーや食材といった資源が巡っていくことで、人々のくらしを支えていく。訪れた人が有東木の暮らしを体験できることで、地域の良さを知らせてもらえるきっかけにもなるだろう。地域のめぐみが巡ることで、有東木での豊かな暮らしが続いていく。



静岡県立科学技術高等学校

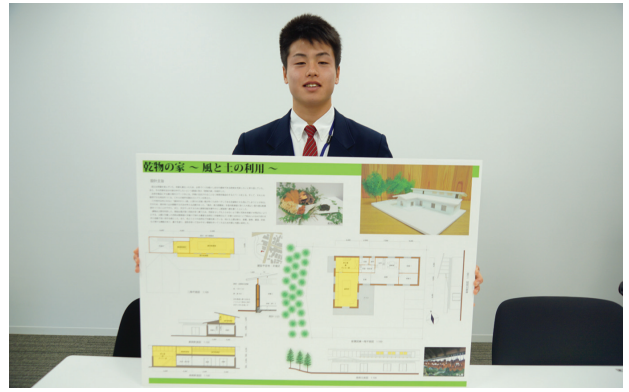
発表者 男子1名 女子2名

チーム名 天竜高校
作品名 乾物の家

祖父が趣味で乾物を作っている姿を見て来た私は、趣味と地域の特徴を生かせることをコンセプトに、「乾物の家」を設計しました。

私の地区は自然豊かで、冬は強い風が吹きます。この風をうまく利用できないかと考案したのが「風向風力調整板」です。これは文字通り風の向き、強さを調整できる物です。乾物を効率的に作ることができ自然の力を使うので環境に優しい作りになっています。

土壁を使うことで吸湿、遮熱、他にも様々な機能があり暮らしをサポートしてくれます。また外壁表面に自然の石をちりばめることで外観をキレイにでき、雨水の流れを作ることで表面に付いた花粉やホコリを洗い流せるようになっています。



静岡県立天竜高等学校
発表者 男子1名

結果発表等

プレゼンテーション終了後、全国大会にそった審査方法でA1パネル内の作品を隅々まで審査し、静岡県審査会の優勝、準優勝、奨励賞を決定いたしました。どの作品も素晴らしく難しい審査になりました。そのなかでも県立科学技術高校（チーム建築デザイン科・建築研究部）の作品が、理解度、具体性、表現力などすばらしく優秀であることから優勝に決定いたしました。全国大会におかれましても健闘されることでしょう。準優勝は島田工業高校でした。

表彰は（公社）静岡県建築士会、佐藤会長より賞状と目録が授与されました。

また、12月に開催された全国大会では、静岡県立科学技術高校が見事優勝いたしました。

本当におめでとうございます。



静岡県立科学技術高等学校
建築デザイン科・建築研究部 チーム一同



最優秀作品（作品タイトル めぐみの巡り）